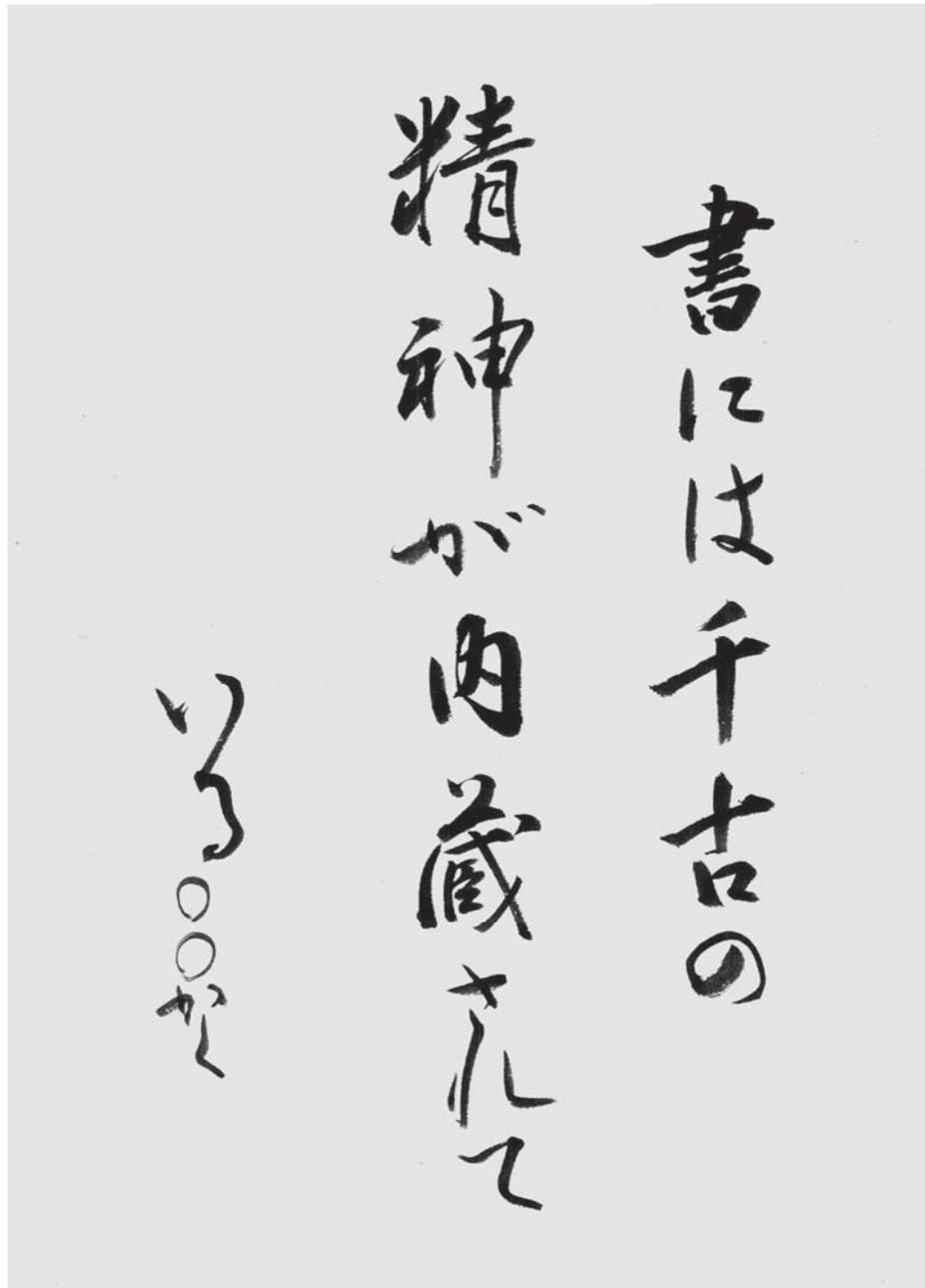


調和体を書く(1)

締切り 一月二十四日(必着)



奥村憲照先生書

回作品の出し方

- ▼硬筆部 B5判(二五七mm×一八二mm)以下の紙に書いて下さい。用具は自由です。(黒色に限る)
- ▼毛筆部 B半紙に書いて下さい。(筆ペン可)
- ▼出品制限の対象とはしませんが、出品は硬毛のどちらか一方に限ります。
- ▼事務処理上、支部略称・氏名・会員番号・硬筆規定の成績(毛筆の場合は毛筆漢字の成績)を、作品余白にお書き下さい。
- ▼優秀作品は、写真版として成績表の後ろに掲載しますが、成績表での順位発表はしません。

◆書道のジャンルには、大別して「漢字」「かな」「漢字かな交じり文」の三つがあります。

◆現代日本の文章表現は全て漢字かな交じり文ですが、ここでは芸術的創作作品を指し、「調和体」「近代詩文」として書道展の一部門を占めています。

◆読める書として近年人気を高めていますが、古典といわれるものがない故に書法はまだ確立しておらず、各団体に新和様・新書芸などのいろいろな呼称で研究が進められています。

◆今回のお手本は、前会長奥村憲照先生が(財)日本書道教育学会に関係していた頃の<sup>しんわよう</sup>新和様のお手本です。本誌初登場です。

◆読めてかつ、書格の高い作品を目指して研究してまいります。

〔読み〕

書には千古の精神が

内蔵されている

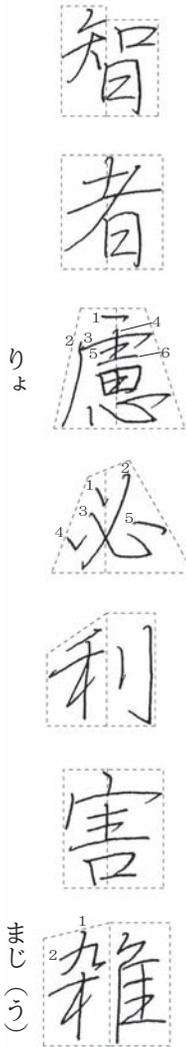
〔解説〕

- ①可読性を大切に。
  - ②変体仮名・連綿はなるべく控える。
  - ③構成を工夫してみよう。
- ※「〇〇かく」は、ご自分の名をお書き下さい。

準初段から六段まで

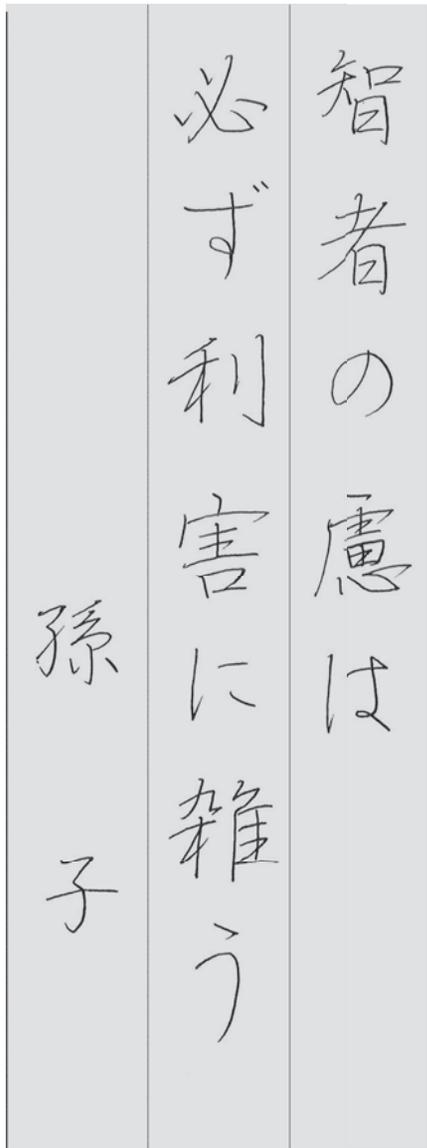
新入から1級まで

〔解説〕



◎今月は行書で、字数も少なく一般の作品として納めるのは難しいが、色々構成を試してみてください。又、形も大切に一本一本の線も大事にしたいものです。

▶教範・書範は右課題を「楷書」で、師範は「行草または草書」で出書して下さい。



おか だ りゅう ほう 書  
岡 田 龍 芳 書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙

〔解説〕



おお たに せい じょう 書  
大 谷 清 城 書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

◆2月課題予告(行草または草書)  
知識は  
我々が天に飛翔する  
翼である  
※構成を工夫してみました。  
▼教範・書範⇨行書  
▼師範⇨楷書

★智者の…(書体⇨行書)  
孫子(紀元前六世紀頃)  
古代中国の武将・兵法家  
孫子は「智者」というのは、判断を誤らない人であると言っています。智者は、利と害の両面から物事を考えるからで、総合的な思考を心得ています。利益を追求するときは、損失の面も考慮に入れておけば失敗も少なくなるでしょう。

※構成を工夫してみました。  
澄んで行く  
歳と共に  
人間は

★調べ…(書体⇨楷書)  
新井白石(一六六七-一七四五)  
江戸中期の儒学者・政治家  
あまりに学問的な意見や高踏的な話には、耳を傾ける人は多くありません。話したことは理解されることが大切で、自分の意見を一方的に言うのではなく、相手によっては調子を変えたり、分かり易いようにして聞いてもらう努力が必要でしょう。

◆2月課題予告(行書)

# 一般部かな課題

締切り 1月24日(必着)

準初段から六段まで

新入から1級まで

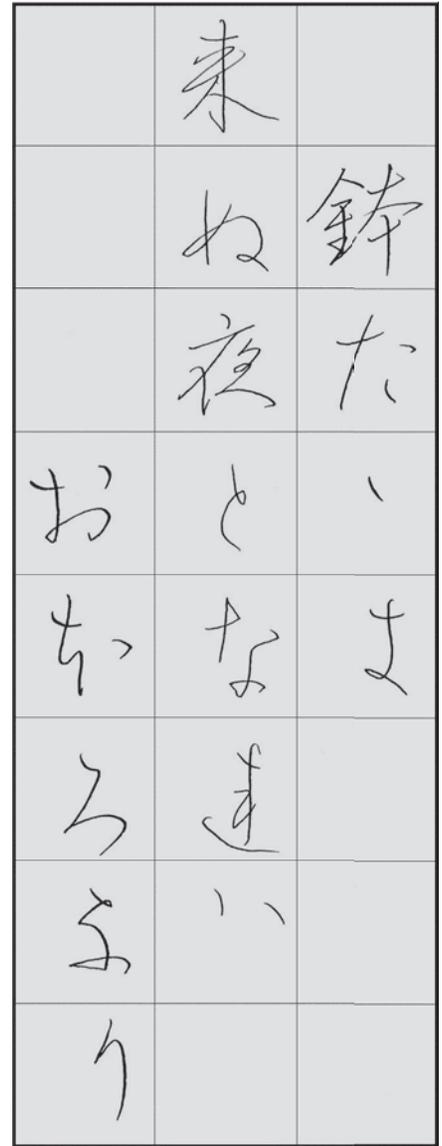


鉢た<sup>者</sup>た<sup>多</sup>き<sup>、</sup>来<sup>、</sup>ぬ<sup>努</sup>夜<sup>奈</sup>とな<sup>禮</sup>れば<sup>盤</sup>臙<sup>於</sup>なり<sup>本</sup>

田中貴光書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙



鉢<sup>、</sup>た<sup>支</sup>きた<sup>、</sup>き<sup>、</sup>来<sup>、</sup>ぬ<sup>連</sup>夜<sup>ハ</sup>とな<sup>お</sup>れば<sup>本</sup>臙<sup>奈</sup>なり

田中貴光書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

■両課題とも、文字の変換・配字は自由です。

鉢<sup>はち</sup>た<sup>こ</sup>きた<sup>こ</sup>き<sup>こ</sup>来<sup>こ</sup>ぬ<sup>こ</sup>夜<sup>こ</sup>とな<sup>こ</sup>れば<sup>こ</sup>臙<sup>こ</sup>なり

(向井去来)

【句解】ついでこの間まで鉢たきたきが来ていたが、しばらく念仏の声も鉦の音も聞こえていないなあと思つて、戸外の空をながめると、いつしか月も臙にかすんでいる。もう春が訪れたのだなあ。

【鑑賞】「鉢たきたき」は、「空也念仏」ともい、空也僧が洛中洛外を念仏を唱え鉦を打って歩くこと。「臙」は、春の夜に万物がかすんで見える様子。

〔古筆参考〕

者<sup>は</sup>者<sup>は</sup>者<sup>は</sup>者<sup>は</sup>者<sup>は</sup>者<sup>は</sup>  
多<sup>た</sup>多<sup>た</sup>多<sup>た</sup>多<sup>た</sup>多<sup>た</sup>多<sup>た</sup>  
奈<sup>な</sup>奈<sup>な</sup>奈<sup>な</sup>奈<sup>な</sup>奈<sup>な</sup>奈<sup>な</sup>  
連<sup>れ</sup>連<sup>れ</sup>連<sup>れ</sup>連<sup>れ</sup>連<sup>れ</sup>連<sup>れ</sup>  
於<sup>お</sup>於<sup>お</sup>於<sup>お</sup>於<sup>お</sup>於<sup>お</sup>於<sup>お</sup>

【解説】「ぬ」は、一画目は縦に書き二画目は、一画目に巻き付けるように書く。「夜」の最後の画は、左側の縦画より少し上に書くと良い。

◆2月課題予告

呼<sup>よび</sup>かへす<sup>、</sup>耐<sup>、</sup>売<sup>、</sup>見<sup>、</sup>えぬ<sup>、</sup>あられ<sup>、</sup>かな

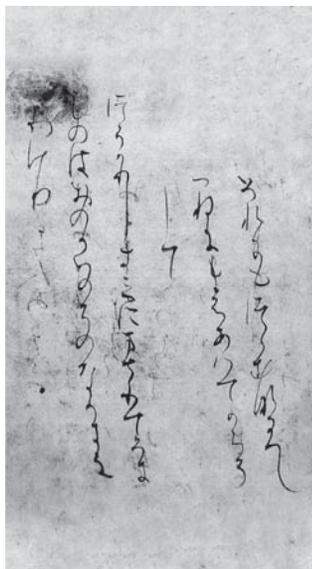
(野沢凡兆)

締切り 一月二十四日(必着)

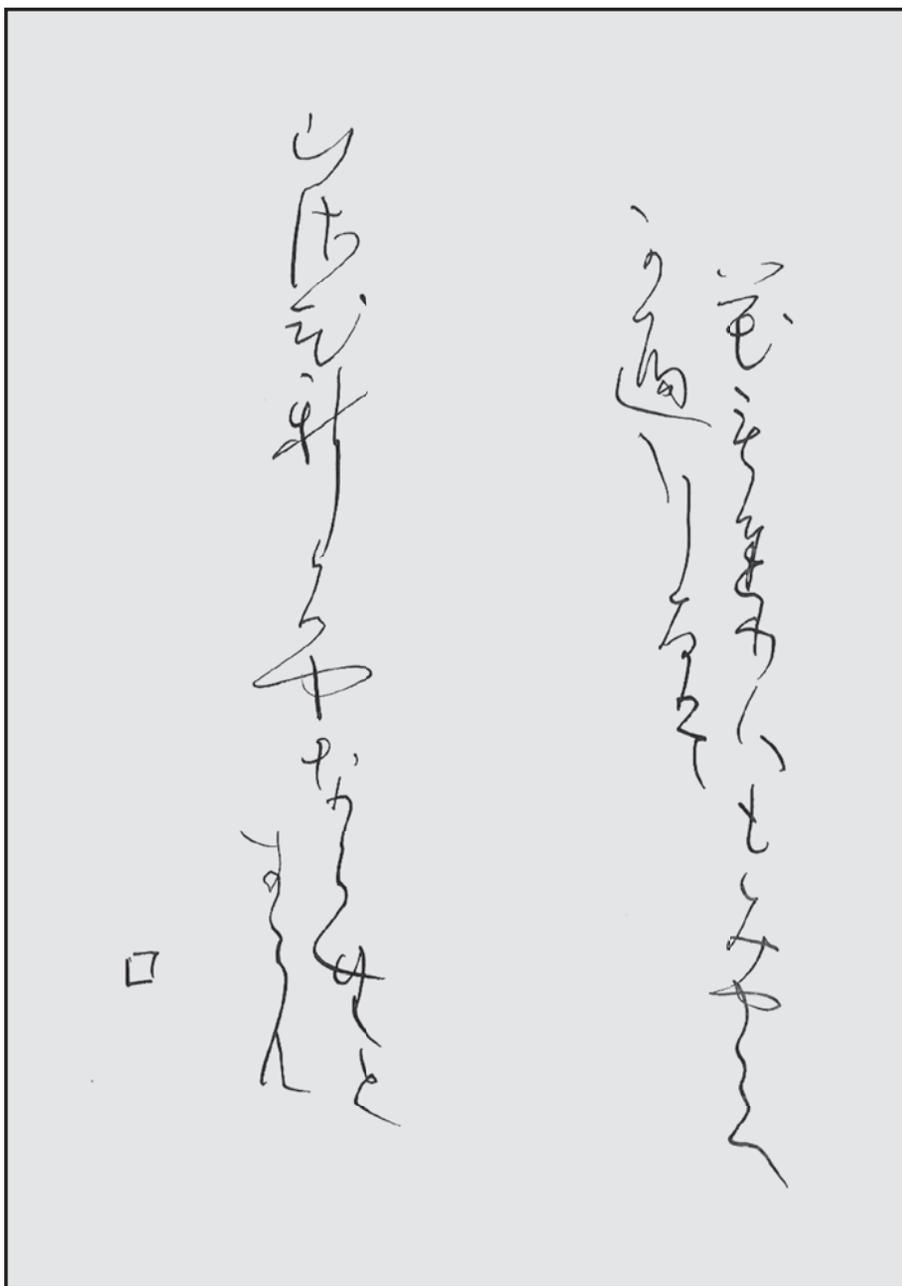
築瀬舟香書

〔古筆参考〕

いちじょうせつしょうしゅう  
一条撰政集



曾爾徒  
それにもつゝむなるべし、  
つねにもえあはで、からう  
じて  
徒  
つらかりしきみにまさりてうき  
ものはおのがいのちのながき  
りけり



「はじめに」

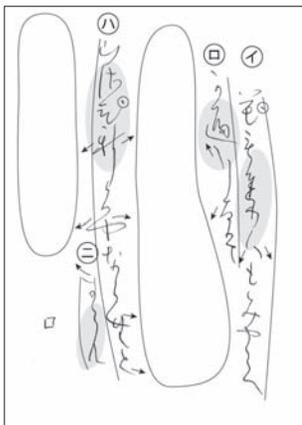
また新しい年が巡ってまいりました。今年には西行の筆といわれている「一条撰政集」を学びながら西行の歌を作品にしていきたいと思えます。

花も散り人も都へかへりなば  
山さびしくやならんとすらん

〔歌意〕山の桜も散り、花を見に来た人も都へ帰ったならば、山は再び寂しくなることであろう。

〔出典〕山家集

〔解説〕



①と②、①と③、②と④、③と④それぞれ呼応。

●と○の間の余白大切。

● 行の密、✓ 指向性、○点の位置大切。

◆2月課題予告

あそは  
青葉さへ見れば心のとまるかな  
散りにし花の名残りと思へば

締切り 1月24日(必着)

雪やこんこ、霰やこんこ…一通り  
歌い終わった孫が「大きな雪だるま  
を作ろうよ」と言い出しました。  
昔は時間の経つのも忘れて、手を  
真つ赤にしながら作ったものです。  
ふと、懐かしさが蘇りました。

作品の出し方

- 新入から師範まで、どなたでも出書できます。成績は評価により毎月変わります。
- 用紙はがき課題はがき用紙、横書き課題は一般部段位用紙を横に使用。
- 用具はがき、横書き課題ともに自由。  
(黒色に限る)
- 両課題とも、書体変換は自由です。

※手本は水性ボールペン使用

雪やこんこ、霰やこんこ…一通り  
歌い終わった孫が「大きな雪だるま  
を作ろうよ」と言い出しました。  
昔は時間の経つのも忘れて、手を  
真つ赤にしながら作ったものです。  
ふと、懐かしさが蘇りました。

横 書 き 課 題

お 尾 ごう すい ごう 書  
郷 翠 光

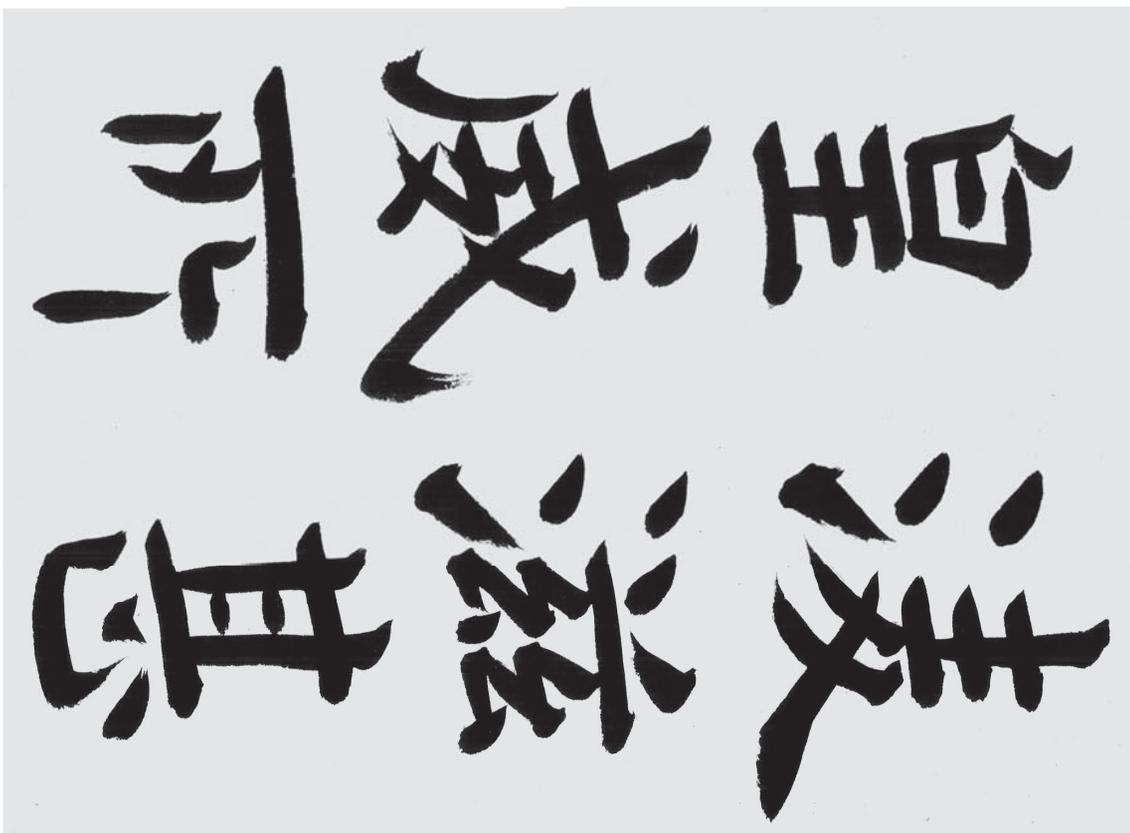
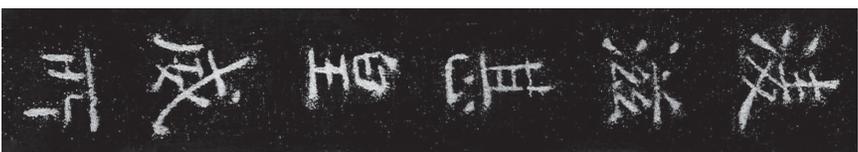
1月7日の朝、五節句の一つとし  
て、春の七草を入れた粥を食べる。

岐阜県恵那市 氏 名

※手本はつけペン使用。 ★三行目は、指定の地名と氏名を書いて下さい。

一般部毛筆漢字課題

締切り 1月24日(必着)



準初段から師範まで

奥村暢之臨

【出典】孔子廟堂碑（626～633） 【筆者】虞世南（558～638）  
【読み】（憑）凌<sup>りょう</sup>滋<sup>ま</sup>す甚<sup>はなは</sup>だし。皇威<sup>こうい</sup>の（被<sup>こうむ</sup>る）所<sup>ところ</sup>、



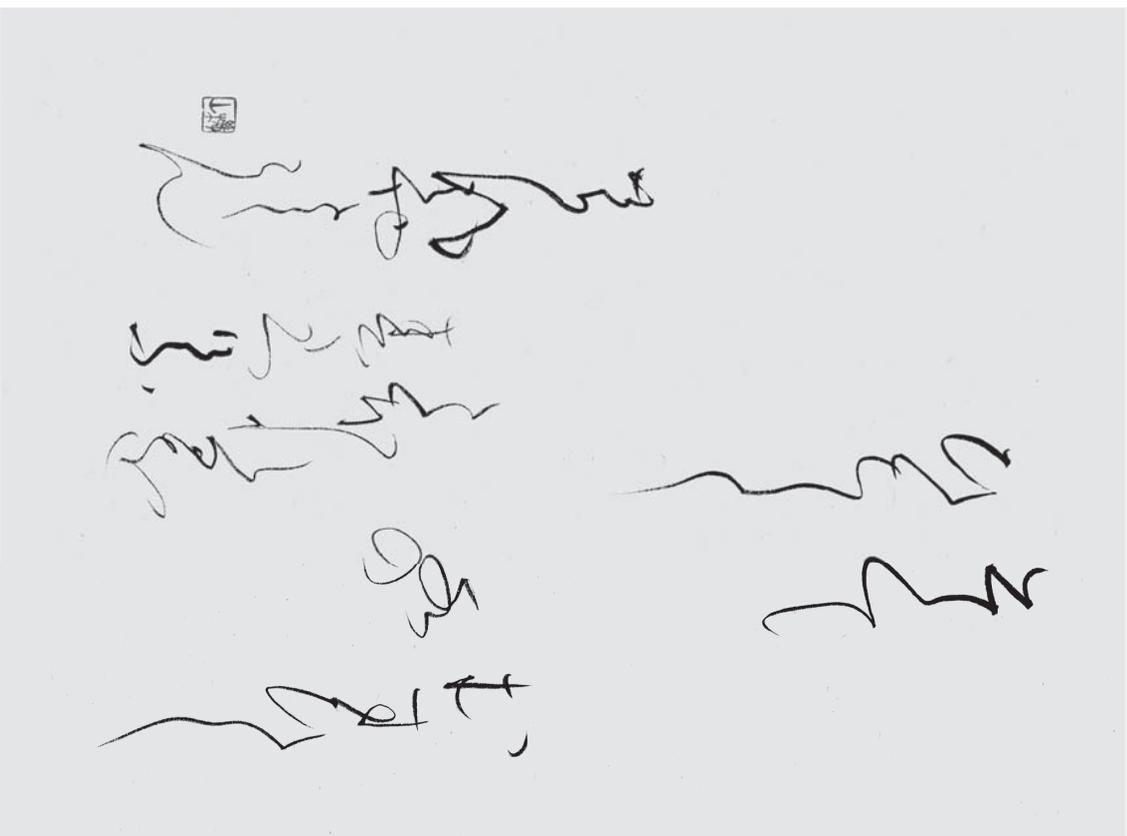
新入から1級まで（楷書）

須田一葉書

【読み】春<sup>はる</sup>雲<sup>のうみ</sup>五<sup>ご</sup>色<sup>しき</sup>開<sup>ひら</sup>く  
【大意】春の雲が美しく色とりどりに開きそめた。

# 一般部毛筆かな課題

締切り 1月24日(必着)

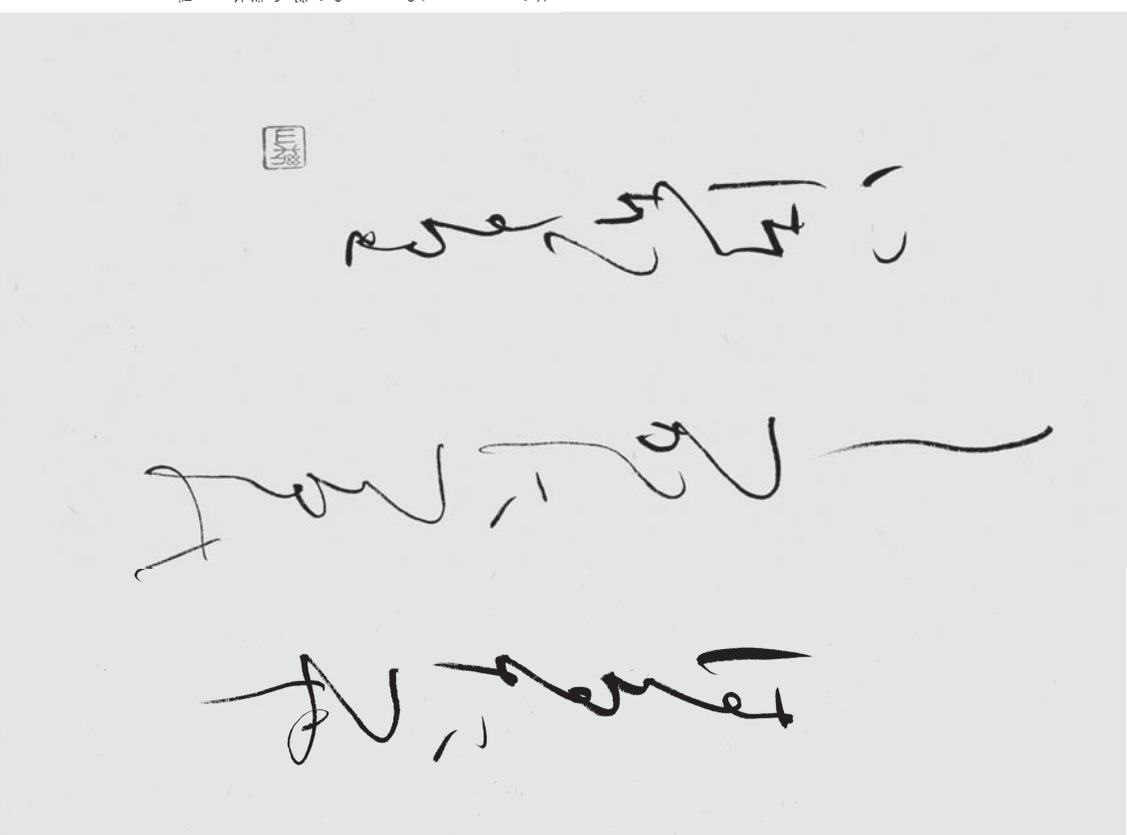


袖ひだてむすびし水のこぼれるを  
春立つ今日の風やとくらむ

【出典】紀貫之

【歌意】袖が水に濡れて、下にすくった暑い夏の水が、やがて冬になり凍っていたのを、立春の今日の風は、今頃解かしているのだろうか。

準初段から師範まで ■ 而課題とも文字の変換、ちらし方は自由です。



春たつや静かに鶴の一步より

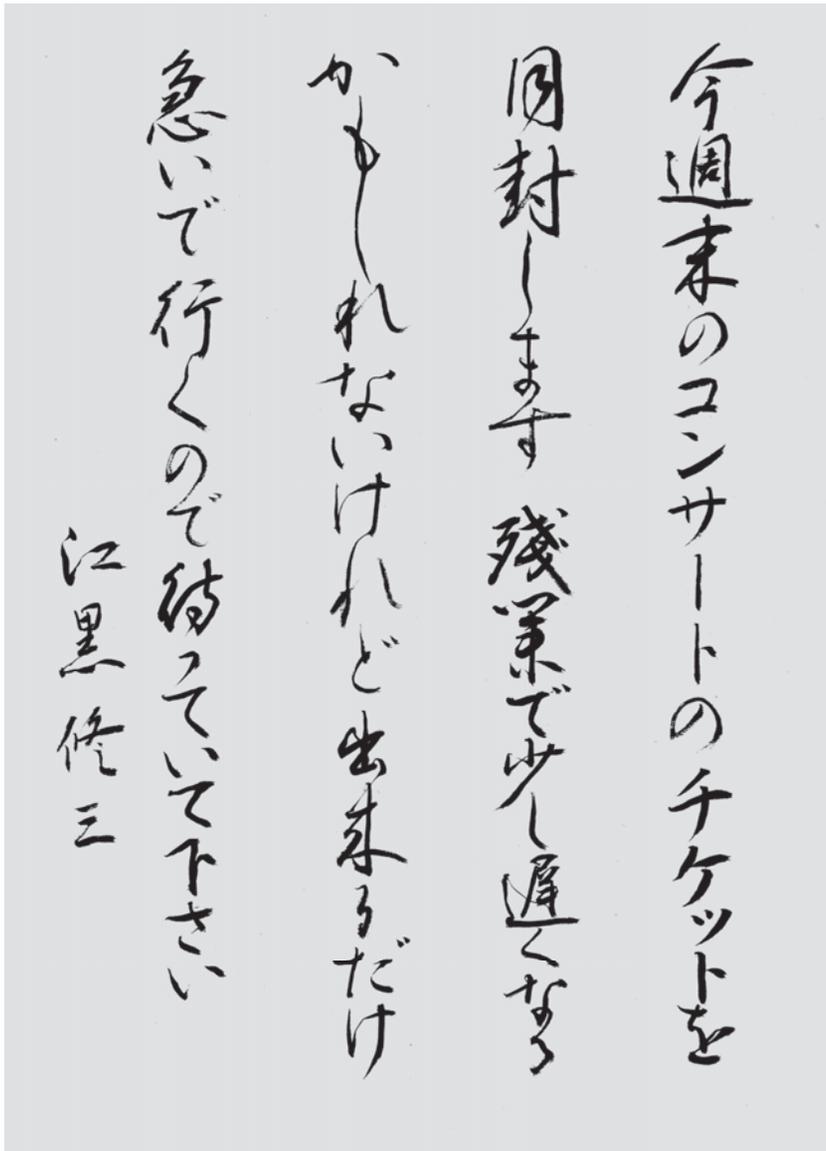
【出典】黒柳召波

【句意】暖かい日ざしに鶴が端麗な一步を踏みだした。その一歩から春が立ちそめるようである。

新入から1級まで 浅井機山先生書

一般部毛筆細字課題

一般部毛筆条幅課題



締切り 一月二十四日(必着) 半切(一三六cm×三五cm)

荻田蒼仙書

半紙(334mm×240mm)

樋田玲華書

かんじおのすからしんをやしなう  
閑時自養神

周憲王

〔大意〕片時も修養に怠りなく励まねばならぬの意。修養なる語は今時聞けなくなりまして。死語になったのでしようか。

初出品の方へ

支部名・会員番号・  
姓名・毛筆漢字成績  
を、作品左下に必ず  
お書き下さい。

〔条幅解説〕書とは形そっくりに書く。古典の臨書も形そっくり…それは大切ではありませんが、一番大切な事はその書の心を学ぶことです。案外そのことを等閑にしてはいないかと思えます。人間国宝、柳家小さんは「芸は人なり」と申しています。

今週末のコンサートのチケットを同封します。残業で少し遅くなるかもしれないけれど出来るだけ急いで行くので待つていて下さい  
(ご自分の氏名)

・印で墨つぎしました。

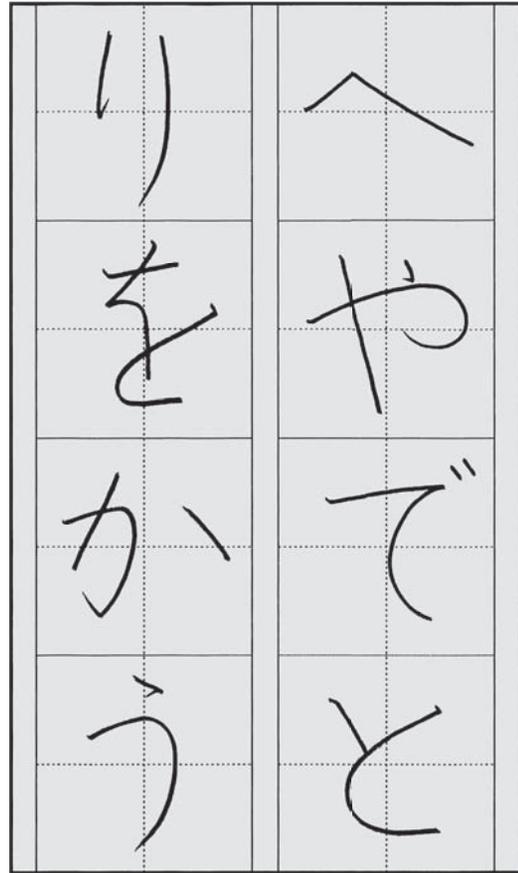
〔条幅・細字作品の出し方〕

■ 新人から師範まで、どなたでも出書できます。

■ 成績(天位〜5等)は、評価により毎月かわります。

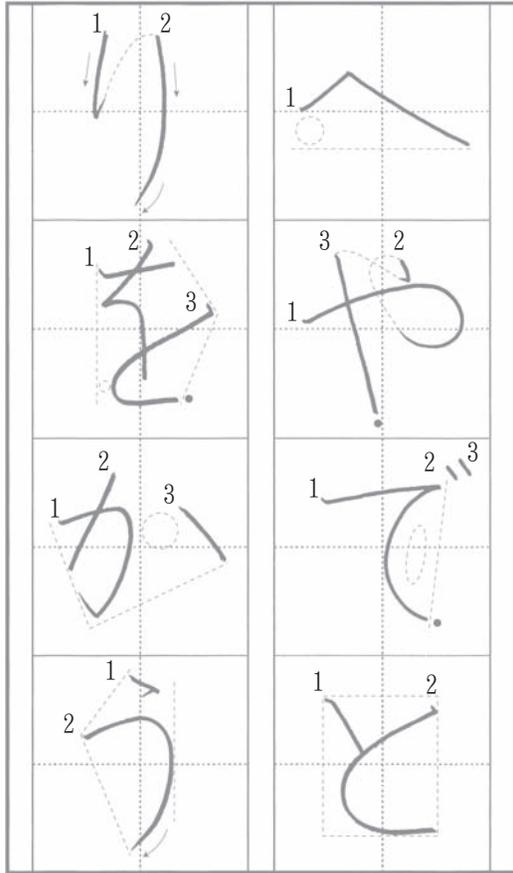
■ 書体変換、変体仮名の交換は自由です。

よ  
う  
年



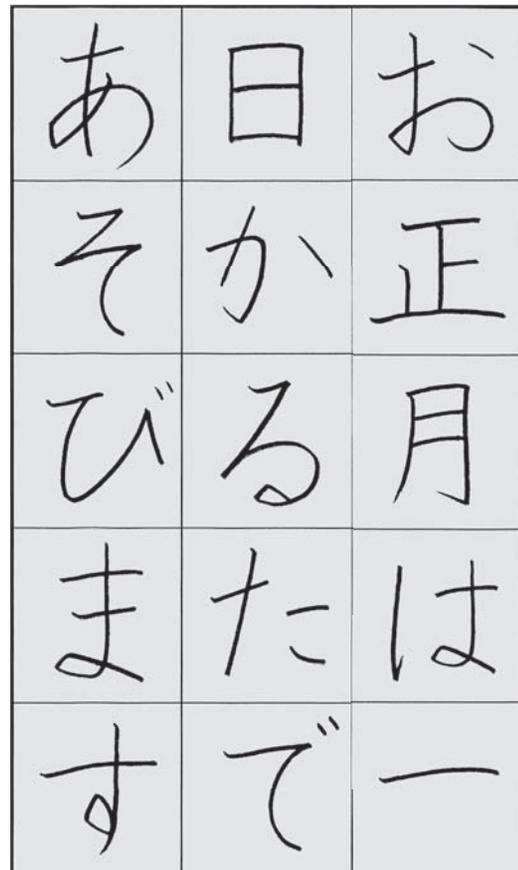
★新入は、年少・年中・年長の別を記入して下さい。  
★幼年は、全員8マス用紙で出書して下さい。

◆ひらがなトレーニング(なぞってかいてみよう)



〈ようぐ〉自由(黒色にかきこむ)

小  
一  
年



(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

新入〜1級

準初段以上



幼年〜小三年まで  
三宅容玉書

〈ようぐ〉自由(黒色にかぎる)

ゆ	七
作	く
つ	さ
た	が

イイ作竹作作  
なな  
一七  
つく

新入〜1級

ん	今	七
と	年	く
作	も	さ
つ	母	が
た	さ	ゆ

小二年  
準初段以上

な	晴
気	れ
持	や
ち	か

日晴晴晴晴  
キ  
も  
は  
ハ持持持持持

新入〜1級

な	に	光
気	晴	る
持	れ	日
ち	や	の
だ	か	出

小三年  
準初段以上

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

小四年

初	の	美
参	朝	し
り	神	い
し	社	元
た	に	日

準初段以上

新入〜1級

に	美
初	し
参	い
り	朝

〈用具 自由(黒色に限る)〉

小五年

よ	願	幸
く	つ	多
書	て	き
い	勢	年
た	い	を

(全員)

小五以上は、全員15マス用紙で出書して下さい。

解説(よく見て習いましょう)

勢	幸
書	多
	年
	願

小四年以上  
岡嶋桂川書

〈用具 自由(黒色に限る)〉

敬言	急
告	激
発	変
青	化

解説(よく見て習いましょう)

る	に	急
青	敬言	激
い	告	な
地	発	変
球	す	化

小六年

(全員)

草	陽	輝
の	光	く
花	に	初
開	福	春
く	寿	の

中二・三年

(行書)

て	夢	意
突	に	志
き	向	を
進	か	貫
む	つ	き

中一年

(楷書)

▼小三年以下の課題 すぎ 杉 うら 浦 けい 恵 すい 翠 書

書 <small>か</small>	み	元 <small>げん</small>	大 <small>おお</small>	正 <small>しょう</small> 月 <small>がつ</small>
き	ん	気 <small>き</small>	き	は
ぞ	な	よ	な	
め	と	く	紙 <small>かみ</small>	
し			に	
た				

◎お手本はえんぴつ使用



- ◇作品の出し方
- 一、選定用紙（五行・四行）に書いて下さい。
  - 一、作品には、支部名（校名）学年、氏名を書き入れて下さい。
  - 一、筆記用具は自由です。（黒色に限る）
  - 一、四行用紙を使用してもよろしい。その場合は、文章を適当に短くして下さい。
  - 一、成績は評価により毎月変わります。
  - 一、支部会員は、出品ラベルを必ず貼って下さい。貼っていない方は新入とみなします。



しめきり 1月24日(必着)

習っていない漢字は  
ひらがなで書いてもよろしい。

▼小四年以上の課題 おお 大 さき 崎 すい 水 しゅう 愁 書

感 <small>かん</small>	美 <small>うつく</small>	年 <small>ねん</small>	手 <small>て</small>	友 <small>とも</small>
心 <small>しん</small>	し	賀 <small>が</small>	書 <small>が</small>	達 <small>だち</small>
し	い	状 <small>じょう</small>	き	か
た	文 <small>も</small>	が	の	ら
	字 <small>じ</small>	届 <small>とど</small>		
	に	き		

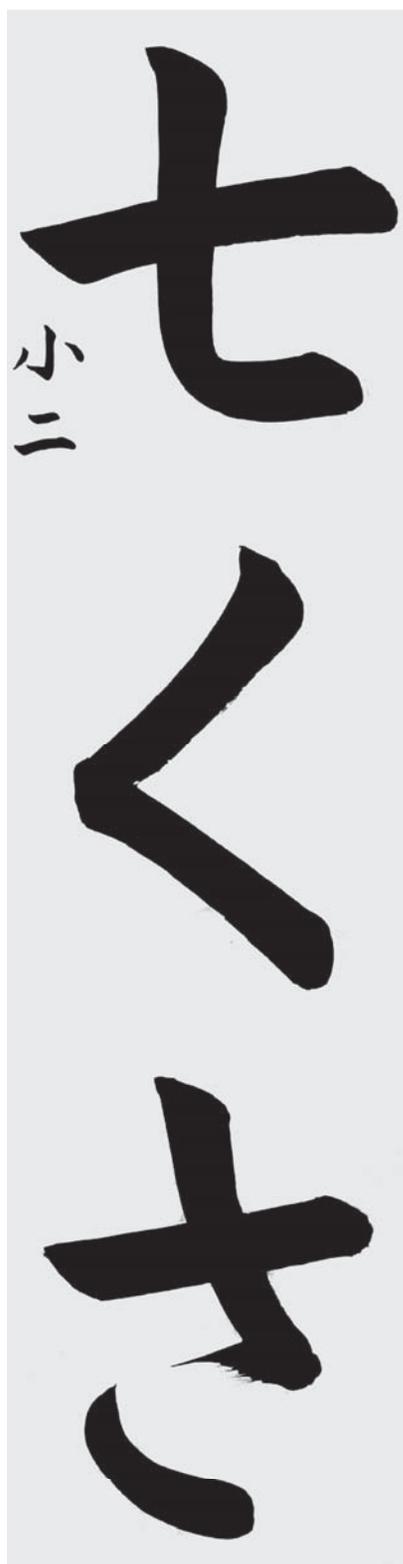
◎お手本はつけペン使用



小 二 年

小 一 年

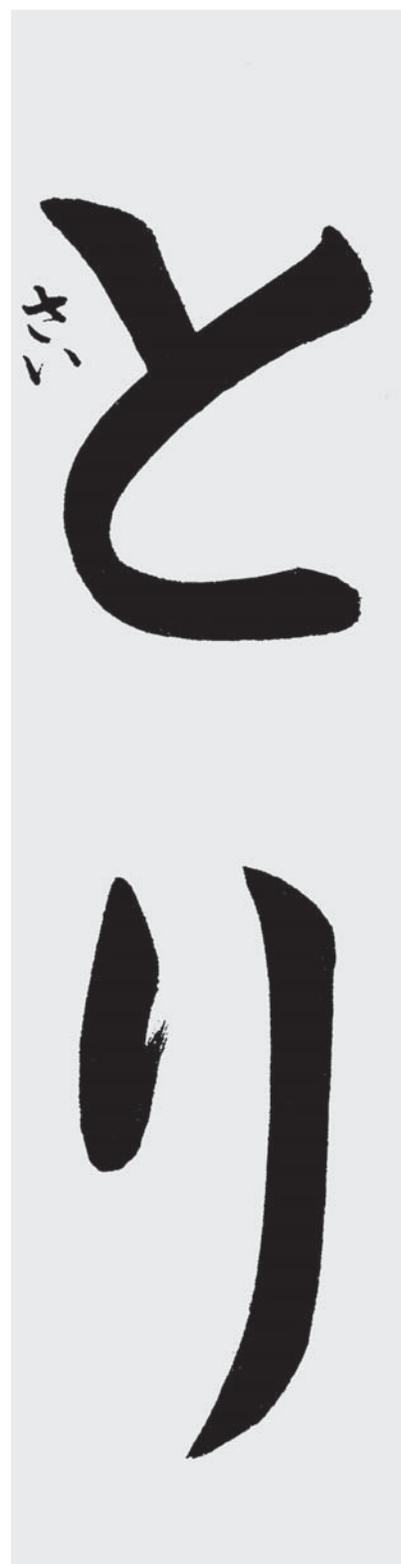
よ う 年



たま き しょう か  
玉 樹 小 華 書



たま き しょう か  
玉 樹 小 華 書



たま き しょう か  
玉 樹 小 華 書

注…コンクール作品は月例競書と兼ねる事ができません。  
両方に出品される方は、二枚お送り下さい。

◆ 1月締切りの課題は、「全国書道コンクール」に合わせて、半切4分の1  
(68cm × 17.5cm) に書くか、いつものように半紙に書いてもよろしい。

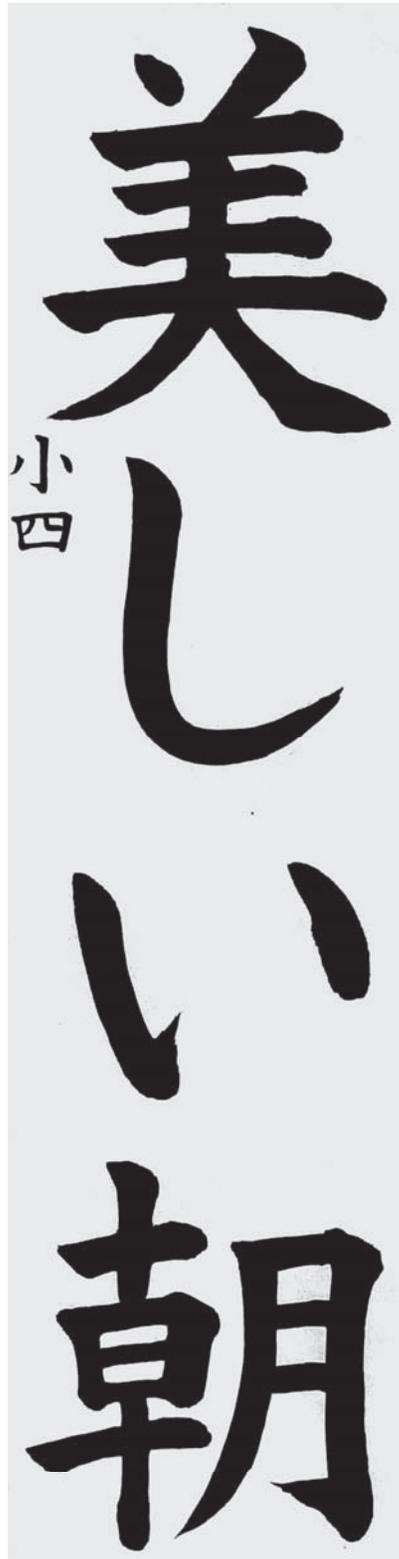
小五年

小四年

小三年



みずのこうちく  
水野香竹書



みずのこうちく  
水野香竹書



みずのこうちく  
水野香竹書

注：コンクール作品は月例競書と兼ねる事ができません。  
両方に出品される方は、二枚お送り下さい。

◆1月締切りの課題は、「全国書道コンクール」に合わせて、半切4分の1  
(68cm×17.5cm)に書くか、いつものように半紙に書いてもよろしい。

中二・三年

中一年

小六年



おくむらのぶゆき 奥村暢之書



おくむらのぶゆき 奥村暢之書



おくむらのぶゆき 奥村暢之書

注…コンクール作品は月例競書と兼ねる事ができません。両方に出品される方は、二枚お送り下さい。

◆1月締切りの課題は、「全国書道コンクール」に合わせて、半切4分の1 (68cm × 17.5cm) に書くか、いつものように半紙に書いてもよろしい。